

平成26年度 府立乙訓高等学校学校経営計画（最終評価）

学校経営方針（中期経営目標）	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点目標
<p>知・徳・体の調和のある人間の育成に努め「文武両道」をめざす。</p> <p>本府「教育振興プラン」を踏まえ、学習指導要領に即して創意・工夫のある教育課程を編成し、日々の教育活動の充実に努め、進路希望の実現と、心豊かにたくましく生きる人間の育成に努める。</p>	<p>1 学力向上に向け「授業改善」・「自学自習の気風醸成」の取組をさらに推進する。「授業改善」については、昨年度に引き続き、本校生の学力実態や進路希望状況に即した授業の在り方を各教科で検討し、「学力の伸張が実感できる」授業を展開する。また、ICTを活用した授業にさらに習熟し、生徒の知的好奇心や興味・関心を喚起する授業実践にも取り組む。自習室の更なる活用を図り、「学びに対するモチベーションアップ」「効果的な学習法の指導」などの指導強化を図り、家庭学習時間の増加を目指す。</p> <p>2 新たな入試制度の下で入学した生徒の状況分析を行い、「学力を伸長させる」手立てを示し、実行することで、「生徒・保護者・地域に信頼される学校」づくりをより一層推進し、安定的に生徒が希望する高校としての地位を確立する。</p>	<p>特色化の推進</p> <p>1 スポーツ健康科学科の学習内容と事業等についてより洗練された内容になるようその体系化を進める。</p> <p>2 理系コースにおける効果的な学習を展開するとともに、将来の進路を見据えた学習内容・行事等を計画する。</p> <p>3 高い希望進路実現に向けた学力向上とその定着</p> <p>(1) 高大連携・高大接続を視野に入れた土曜活用事業等の推進を行うとともに、学習室（自習室）の有効活用を推進し、学習習慣の定着を図る。</p> <p>(2) 進路指導対策会議の活用により各種模試の結果の分析など、一人一人の状況と生徒全体学力の傾向を把握し、現在有する学力をより一層伸張させるための指導と方策を講じる。</p> <p>(3) ICT等を活用した授業にさらに発展させ、「生徒に学力をつける授業」の構築を図る。</p> <p>(4) 基礎学力向上のため、SHRの有効活用とともに、定期考査前に、成績不振生徒に対する「学習講座」を設け、評定「1」の生徒を減少させる取組を継続する。</p> <p>4 家庭との緊密な連携とともに、校内連携体制の充実に図りながら、「生徒・保護者・地域から信頼される学校」づくりを一層推進する。</p> <p>(1) 基本的な生活習慣を確立するための指導を推進する。</p> <p>(2) 規範意識の高揚に係る生徒指導を推進する。</p> <p>(3) 生徒会活動、部活動の充実に図り、学校の活性化を推進する。</p> <p>(4) 開放型地域スポーツクラブの活動を通じて、地域連携を推進する。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	分掌	評価	成果と課題
1 組織運営	組織的な校務運営の推進	<p>(1) 新校務システムの円滑な運用を図り、成績、出欠管理、指導要録、調査書等、職員が能率よく業務をこなすことができる環境を整備する。</p> <p>(2) 教科主任会議を一層機能させ、公開授業等を通して授業改善や評価の方法の研究を進める。</p> <p>(3) 校内ネットワークの活用により教務部からの情報発信の方法を工夫し、各分掌・教科からの伝達内容や生徒の欠席状況等の情報の共有化およびリアルタイム化を進める。</p>	教務	B	<p>(1) 新校務システムはスムーズな運用により、成績処理等の業務の効率化に寄与している。現状では、教務部・進路指導部・保健部・事務部に係る部分が活用されているがさらに活用の範囲を広げたい。</p> <p>(2) 6月と11月に授業研究週間を設定し、ICT活用等に関する事後研修会により、授業研究や意見交流を深めることが出来た。</p> <p>(3) 教務部からの日常的な情報発信や電子ファイルのダウンロードができるホームページ「教務の窓」を活用し、情報共有の利便性を高めた。</p>
	生徒募集対策	<p>(1) 本校が目指す学校像や魅力を学校説明会、中学校訪問、教育機関訪問等を通じて正しく伝えて理解させ、乙訓地域や近隣地域からの志願者をしっかりと確保する。</p> <p>(2) 乙訓高校の特色である理系コース並びに文Aコースの設置目標を明確にし、一定のボリュームで高い学習意識を持った生徒を確保する。</p> <p>(3) スポーツ健康科学科は、一期生・二期生の成果をこまめな中学校訪問や学校説明会で伝え、乙訓高校の柱を担える生徒の確保に努める。</p> <p>(4) 昨年度の入試制度改革による中学生の進路決定の変化を的確に捉え、効果的に説明会や個別進路相談会を配置して積極的に展開する。</p>	総務企画	B	<p>(1) 乙訓高校が目指す学校像については近隣の地域、中学校に浸透してきているが、昨年度より始まった入試制度改革により乙訓地域からの志願者は少し減少した。</p> <p>(2) 昨年同様にボリュームとして満足できるまでにはならなかった。</p> <p>(3) 競技力との両立が難しい問題ではあるが一定数の確保はできた。</p> <p>(4) 各学校ともに複数回の説明会を実施するため、今年度は近隣他校と重なる場合が多く参加総数は若干減少した。しかし、本校を熱望してくれる生徒も多く、来年度に向けても的確な配置に努めていきたい。</p>

2 学習指導	基礎学力対策、進路実現	<p>(1) 本校の目指すべき教育を見据え、新学指導要領に基づく効果的な教育課程を編成し、魅力的かつ信頼される学校を作る。</p> <p>(2) 教育課程特例校を申請し、学科を越えた講座編成や効果的な習熟度別講座編成を行うことにより、進路実現のためのより高い学力を育成する。</p> <p>(3) 成績不振生徒を対象に定期考査前に実施する「放課後学習講座」をより充実させ、成績不振者を減少させ、中途退学者、原級留置者の根絶を目指す。</p> <p>(4) 自主学習の場としての学習室の一層の利用促進を図る。</p> <p>(5) 「おとくにベーシック」「おとくにアカデミア」の時間を活用し、基礎学力の定着及び難関大学入試等に対応できる発展的学力の育成を図る。</p>	教務	B	<p>(1) 新制度における平成 26 年度入学生の実施一年目にあたって、1 年後半期からのコース変更の運用や来年度の科目選択指導などを適切に実施できた。</p> <p>(2) 放課後学習講座は生徒の状況を考慮して課題の内容等を改善しながら実施し、成績不振生徒の減少を図り、年度途中での中退や転学生徒を昨年度に続き少人数に維持できた。生徒の実態に合わせながらより効果的な取り組みになるようにしていきたい。</p> <p>(3) 学習室の利用については、定期考査前や大学受験対策の自習の場として定着した。</p> <p>(4) S H R の欠課過多による指導対象となる生徒数は引き続き減少傾向にある。</p>
		<p>(1) AO入試対策・小論文対策指導を早期から開始するとともに、個別面談を通じ、的確な進路指導を推進する。</p> <p>(2) 進路指導対策会議を活用し、各種模擬試験の結果分析など、生徒一人一人の状況を把握した上での進路指導を実現するために、情報共有を図る。</p> <p>(3) スポーツ健康科学科における 3 年間を見すえた進路指導計画の充実を図る。</p> <p>(4) 進路希望調査を年 2 回実施し、生徒の進路希望の把握に努める。</p> <p>(5) FINE SYSTEM の活用をはじめ、進路指導に必要な情報を広く教職員間で共有できるよう努める。</p> <p>(6) 卒業後に社会人となる就職希望者への支援を十全に行うために、企業訪問、本人・保護者との面談、就職説明会、模擬面接等において、学年との連携を緊密にとることで、採用不調や早期離職とならない就職指導を行う。</p>	進路		B

3 進路指導	進路目標の明確化	<p>(1) 第1学年においては将来のキャリア形成を見すえた進路行事を実施する。</p> <p>(2) 第2学年においては進路目標の明確化を中心とした進路行事を展開し、志望理由書の指導と併せて、具体的な進路希望の確立を促す。</p> <p>(3) 第3学年においては自己の能力を最大限に引き出させ、高い達成感と明確な目的意識の伴う進路実現を支援する。</p> <p>(4) キャリア教育の視点に立った進路指導に向け、研修会の開催や情報の提供に努める。</p> <p>(5) 進路目標に応じたきめ細かい説明会を開催する。</p>	進路	B	<p>(1) 第1学年においては従来の進路行事を大幅に見直し、2学期には「働くってどういうこと」というテーマで職業についての理解を深め、3学期には「学びと仕事」というテーマで仕事につながる学びについての学習を行った。</p> <p>(2) 第2学年においては進路目標の明確化をテーマに大学訪問、模擬授業、分野別・進路別の説明会を実施した。</p> <p>(3) 第3学年については進路実現に向けて個別指導を中心に行った。</p> <p>(4) 今年度については研修会は実施できなかった。</p> <p>(5) 3年生を対象に各種進路説明会を実施した。</p>
	学力向上への取組	<p>(1) 高大連携・高大接続を視野に入れた土曜活用事業を自学自習・発展的学習の機会として充実させる。</p> <p>(2) 漢検・英検取得を通じ、進路実現に向けた学力の向上を図る。</p> <p>(3) 教科と連携し、進路実現に向けた的確な進路補習や学習合宿を展開する。</p> <p>(4) 進路資料室・学習室を活用し、生徒の自学自習を支援する。</p>	進路	B	<p>(1) 1・2年生については学年部を中心に、3年生については社会科の進路補習を土曜活用として実施した。</p> <p>(2) 国語科・英語科・情報科のもとで漢検・英検・ワープロ検定を実施、3学期には今年度初めて1・2年生の希望者を対象にGTECを実施した。</p> <p>(3) 今年度は学習合宿を2年に移行させるために実施せず、進路補習については放課後及び長期休業中に教科の協力のもと実施した。</p> <p>(4) 進路資料室を整備した。</p>
	学年部との連携強化	<p>(1) 年度初めと必要に応じて、進路指導担当者会議をもつ。また、各担当者が、必要に応じて学年会に参加する。</p> <p>(2) 1・2年生については、進路指導部内の学年担当と、学年部の進路指導担当者をパイプとして、進路指導部会と学年部会とで互いの情報を共有し、共通した生徒観をもってより適切な進路指導を実現する。</p> <p>(3) 3年生については、進路指導部各担当がこまめに学年との連絡調整を図るとともに、進路指導部内において担当者間の連絡を緊密に行う。また、全体進路検討会、一般入試出願検討会、国公立大学出願検討会を通して指導方針の共有化を図る。</p>	進路	A	<p>(1) 年度当初に進路指導部会議を持つとともに進路指導部担当者が適宜学年会に参加し、学年部との連携を図った。</p> <p>(2) 第3学年については1学期1回、2学期2回、3学期1回の進路検討会議を開催し、生徒の指導情報の共有化を図った。</p>

4 生徒指導	生徒会活動の充実	(1) 学校行事・部活動の核となるように生徒会本部・各種委員会を活性化させる。	生徒指導	B	(1) 前・後期ともに立候補で成立した。各種委員会を積極的に動かすことができた。朝の挨拶運動、遅刻指導週間における33・30PROJECT等様々な企画に取り組んだ。ボランティア活動をさらに充実させ、推進していきたい
	基本的な生活習慣の確立	(1) 授業規律を順守させる。 (2) 各分掌と協力し、SHR、授業の遅刻を限りなく0にする。 (3) 身だしなみ指導（頭髪、制服の着こなし、装身具等）を徹底する。 (4) 挨拶・会釈を励行させる。	生徒指導	B	(1) 携帯電話の授業中の持ち出し等における指導は述べ24件であった。登校後はカバンの中に入れる指導を徹底していきたい。 (2) 遅刻指導週間を設けたが、遅刻者が多かった。また、授業が始まってから登校して来る生徒が多くいた。 (3) 朝の登校指導等を中心に頭髪、化粧、身だしなみ指導を継続して行った。大きな問題点はなかった。
	部活動の活性化	(1) 魅力ある部活動を推進し、入部率・定着率を向上させる。 (2) 重点クラブを中心に全国・近畿レベルで活躍できる生徒を育成する。 (3) 定期的にキャプテン会議を開催し、部員の意識の高揚やマナーの向上を図るとともに、横のつながりを大切にする。	生徒指導	B	(1) 今年度は一年生の入部率が低い数字を示した。アンケートによると勉強時間を確保したいなどの意見が多くありそれに応じた活動を考える必要がある。 (2) 全国大会で優勝する生徒がのべ5人もおり、活発な部活動が出来ていた。 (3) 好成績に対し、他部も素直に喜びを分かち合っている様子から各部活間の良好なつながりを確立出来ていた。
	問題行動の未然防止	(1) 朝の登校指導や校内巡視による生徒観察をおこなうとともに教職員間のネットワークを大切にし、問題行動の未然防止に努める。 (1) あらゆる場面において判断力や態度など生徒自身の自己指導能力の向上に努めさせる。	生徒指導	B	(1) 問題行動における指導件数は増加したが、校内の様子は全体的に落ち着いており、この雰囲気を持続させていきたい。 (2) 生徒一人ひとりが年齢に応じた立ち振る舞いができるように「躰」をしていく。
	安全指導	(1) 登下校時の安全指導を中心に自転車の乗車マナー向上に努める。 (2) 雨天時における自転車通学には雨合羽着用を徹底する。	生徒指導	B	(1) 毎日の校門指導と各学期に1回通学改善マナーを設け、警察署・PTA役員・地域の方々の協力を受けて、生徒の意識の向上に努めた。 (2) 地域等からの情報にもすぐ対応できた。
	人権教育	(1) あらゆる教育活動の場面に人権活動を位置づけ、一人一人を大切にされた教育の推進を図る。 (2) 家庭、地域社会、関係諸機関との連携を密にした指導を展開する。	総務企画	B	(1) 人権教育会議を中心に計画立案して、重要な人権課題について取り組んだ。 (2) 家庭、校内はもとより府立高校人権会議や長岡京市五者会議など地域、関係機関との連携を心掛けた。

5 健康安全	健康に関する知識・意識の高揚	<p>(1) 各種健康診断を計画に沿って実施する。</p> <p>(2) 生徒の実態に応じた保健活動（講演会、保健委員会活動等）を実施し、生徒自らが自身の健康の保持増進を図ることができるようにする。</p> <p>(3) 心理面や発達課題を持つ生徒の指導を、関係教職員等（担任・保護者・SC・教科担当者・部活動顧問）及び関係機関と連携を図り効果的に行う。</p> <p>(4) 発達に課題を持つ生徒の理解を深めるための研修会を実施する。</p> <p>(5) 「食育」に関する講演会を実施し、生徒が健康な生活を送るための食生活の大切さを理解し、健全な食生活を送ることができるようにする。</p>	保健	B	<p>(1) 各種健康診断は計画に沿って実施できた。</p> <p>(2) 食育講演会は本校生徒の実態を踏まえて効果的に行えた。また保健委員による研究発表は、食生活の自覚と改善のために学年別・性別・部活動別に分析を行い、体験を含めた発表を行えた。</p> <p>(3) SCと担任・保護者はもとより他分掌や部活動顧問とも連携を図り、効果的な指導が行えた。</p> <p>(4) 特別支援教育に関する教職員研修を実施した。</p> <p>(5) PTAとの共催で「望ましい食習慣について」の講演会を実施した。</p>
	学習環境の美化整備	<p>(1) 日常清掃・定期大掃除・外庭大掃除の指導を徹底する。</p> <p>(2) 美化委員及び教職員による日常・定期清掃点検を実施し、美化意識の向上を図る。</p> <p>(3) 美化委員会活動を活発にすることにより、自発的に清掃活動に取り組めるようにする。</p> <p>(3) 照度・水質・空気検査を計画的に実施する。</p>	保健		
6 図書館経営	図書館の円滑な運営と図書館教育、視聴覚教育の充実	<p>(1) 教育活動を支え生徒の教養の育成を促す資料の充実を図り、図書館を円滑に運用する。</p> <p>(2) 団体鑑賞行事を実施する。</p> <p>(3) 視聴覚教材、機器の充実を図る。</p> <p>(4) コンピュータによる書籍管理、貸出業務を実施する。</p>	図書	B	<p>(1) 生徒教職員の要望に応え、必要な書籍をそろえていった。（教員アンケートも実施）</p> <p>(2) 団体鑑賞「野球部員舞台に立つ」は、学校が舞台で親しみやすく、鑑賞態度も良かった。会場移動の際の安全指導が課題である。</p> <p>(3) HDビデオカメラを1台増やし撮影を行った。 ビデオカメラ毎に編集ソフトが異なるので作業がし辛い。</p>
	図書委員会の充実	<p>(1) 図書委員会の指導と、委員会行事の充実を図る。</p> <p>(2) 図書館見学会・図書委員会交流会（山城高校）へ参加する。</p>	図書		

7 地域連携	学校情報の発信	(1) ホームページの再構築とタイムリーな更新を行い、情報発信の中核とする。 (2) 開放型地域スポーツクラブ等の活動を通して、地域にスポーツ活動を通じた本校の魅力を伝える。	総務企画	B	B	(1) 年度当初に研修会に参加し、ホームページの構築等に工夫しながらタイムリーな更新に心掛けた。結果、閲覧数はかなりの伸びを示した。 (2) 各部活動顧問に一定の権限を持たせて情報発信した。地域に開放されたスポーツ活動を実施した。
	ボランティア活動の実施	(1) 長岡京市、向日町警察署と連携しながら、各種取組に参加協力する。 (2) 「長岡京市緑のサポーター」及び「地域安心安全ステーション」に取り組む。	生徒指導	B		長岡京市、向日が丘支援学校や長岡京市体育協会等の行事や取組に積極的に参加、協力した
8 スポーツ健康科学科	スポーツ健康科学科充実に向けた取組の推進	(1) 専門科目(「スポーツ概論」、「スポーツ総合演習」)を生徒によりわかりやすいものにし、研究発表の質をさらに向上させる。 (2) 高い希望進路実現に向けた学力向上・定着を図る。 (3) 競技力向上を図り、重点種目のみではなく、全国大会への参加者を増やす。 (4) 「おとくにクラブ」を中心に、地域住民に対してスポーツの楽しさ、スポーツの実践による体力づくり、健康づくりの大切さを知ってもらう活動を行う。	スポーツ健康科学	B	B	(1) 研究発表については年々レベルが上がってきているが、次年度は保健体育課教員の関わりを多くして、より専門的なものにしたい。 (2) 防衛大学校を除く国公立がゼロであったが、関西大学、立命館大学に一般入試で最後まで頑張り切れた生徒が出てきたことが良かった。 (3) スポ健で全国チャンピオンが3名出た。 (4) 小学生スポーツ教室を中心に地域スポーツ振興に資することができた。
9 校務事務	生徒の福利厚生	(1) 修学支援の適切な運用を図る。 (2) 諸費収納事務の円滑な運用を図る。 (3) 諸証明等発行事務の円滑な運用を図る。	事務	B	B	(1) 及び(2)については、担任等の協力を得て適正に処理することができた。 (3)についても、概ね適正に処理できた。
	財産・施設・設備、物品管理	(1) 校舎・施設等の適正な維持管理に努める。 (2) 学習環境の更なる充実を図る。 (3) 特色化に向け必要物品の充実を図る。	事務	B		(1) 及び(2)については、概ね対応できた。 (3)については、若干課題が残った。
	個人情報保護	(1) セキュリティを考慮しつつ、利用しやすいネットワーク環境を一層充実させる。 (2) 職員室、準備室における管理区域(生徒・部外者立ち入り禁止区域)の徹底を図る。	総務企画	B		(1) ホームページからの発信について工夫をした。 (2) 徹底できた。
10 危機管理	防犯・防火	(1) 危険をいち早く発見して、事件・事故の発生を未然に防ぐための指導を行う。 (2) 事件・事故が発生した時は適切かつ迅速に対応し、被害を最小限に抑える。 (3) 学校防火・防災計画の立案と適切な避難訓練を実施する。	生徒指導	C	C	(1) (2) 事故等の発生想定し、あらゆる場面で規律正しく集団行動ができるように指導を行った。 (3) 十分な避難訓練ができなかった。

<p>学校関係者評価 委員会による評価</p>	<p>日常的な取組の成果が進路実績や部活動の活躍等に大きな現れ、今後も期待できると大変楽しみにしている。また、地域スポーツの活性化の土台にもなっている。生徒が生き生きと学校生活を送っている様子をもっと地域の人々に広報してほしい。今後も現在の取組の方向性に確信を持ち、全校一丸となって、発展的に諸取組に邁進してほしい。</p>
-----------------------------	--

<p>次年度に向けた 改善の方向性</p>	<p>ここ数年間で確立した本校の特色である基本的な生活習慣の徹底を基礎とし、学習と部活動の両立を図れることができるように諸取組の発展的改善を推進する。特に乙訓高校の大多数を占める学力中位層に具体的な目標を持たせ、積極的に学習活動に臨ませながら、学力の全体的な向上を図ることを大きな柱とし、全校生徒の家庭学習時間の拡充に向けた意識の高揚とその実践を図り、「反復・継続・定着」につながる様々な方策を検討する。</p>
---------------------------	--

A：達成できている。 B：ほぼ達成できている。 C：あまり達成できていない。 D：ほとんど達成できていない。